

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177600236		
法人名	株式会社マーファ		
事業所名	グループホームはなかわ		
所在地	石狩市花川東1条3丁目12番地		
自己評価作成日	平成 25年 3月 5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0177600236-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0177600236-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 25年 3月 22日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、毎月の行事で外食に出掛けたり、海、公園、ピクニックやホームで行うレクなどイベントを沢山計画し実行しています。行事にはご家族様や町内会の方々にも参加して頂き交流をもち楽しんで頂く機会を設けています。又、ボランティアや実習生の受け入れも積極的にご利用者と交流して頂いています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

石狩市内の札幌側に隣接する新興住宅地に位置しており、2階建て2ユニットのグループホームです。バス通りに面しており、すぐ近くに高校があり、大型スーパーや小学校なども近く、海や公園へのドライブにも行きやすい良好な環境となっています。年間を通して食事会やピクニックなどの外出行事や楽しみごとが多くあり、利用者は明るく自由に過ごしています。地域との交流が活発で、保育園や各種ボランティアとの交流が行われています。また、運営推進会議や家族会に家族の多くが参加し、利用者の外出などにも家族の協力を得ています。前回の外部評価で課題となった、運営推進会議や避難訓練での記録類の整備に取り組み、改善につなげています。また、内部研修や衛生管理も充実させています。管理者を中心に、職員全員が連携を図り、サービスの向上や記録類の整備などに積極的に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示して、職員全員が認識し、意識できるように取り組んでいる。	新しく作った「自然と笑顔になる暮らし」というホーム独自の理念を職員間で共有しており、共用部分に掲示しています。以前の理念では地域との関わりを盛り込んでいましたが、新しい理念には盛り込んでいません。	職員全員が地域密着型の意義を共有できるよう「理念」または「ケア理念」などの中で、地域との関わりについて盛り込むことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年夏祭りを行い、地域のボランティア方や、地域の方を招き、太鼓や、花火、料理等を楽しんで頂き、交流をしている。また片付け等、地域の方にもお手伝い頂き、できる限りお話をするようにしている。	ホームの夏祭りに大勢の地域の方が参加したり、協力を得ながら交流しています。利用者が近くの保育園の学芸会を見学したり、歌や劇、話し相手などのボランティアの訪問も受けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進委員会では、介護支援計画に基づき介助した結果、好転した事例や、又うまくいかなかった例などを挙げて、当事業所の対応策をお話し、地域の方にも理解して頂くようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進委員会や家族会を定期的に開き、地域の方の意見や、ご家族様の意向を、毎月の職員会議で、管理者を含め職員全員で検討し、実行している。	会議は2ヵ月毎に開催され、市や地域包括支援センター職員、町内会役員、多数の利用者家族が参加しています。年間行事や防災、感染症対策などテーマを計画的に設定して意見交換しています。議事録を全家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者は必ず運営推進委員会に招き当事業所のケアサービスの取り組みの報告やご意見を頂く様にしている。	運営推進会議に市の職員の参加を得ており、高齢者支援課の介護相談員が2ヵ月に1度、ホームを訪問しています。市役所が近いので、相談事があればいつでも出向いて相談しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で、全ての職員が身体拘束について理解しています。	身体拘束の防止について、禁止の対象となる具体的な行為を明記した資料を使用して定期的に勉強会を開催し、理解を深めています。玄関は内側からは上方のボタンを押して自動ドアを開錠していますが、利用者も開錠することができます。2階のユニットから玄関ホールに利用者の出入りがある場合は、音で分かるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等で、職員に対し、虐待防止法について学ぶ機会を持っている。又、ケアサービスを行うに当たり、管理者を中心に虐待等はないか日々確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の個々の必要性について話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の内容をきちんと読み上げ説明している。質疑応答に答え十分に納得して頂いた上でサイン、捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2か月に一回運営推進会議を必ず行い、家族、役所、地域の方、職員で話しをし意見や要望を聴取し、運営に反映している。	家族の来訪の際に意見を聞くほか、運営推進会議や家族会に参加する家族も多く、意見収集や情報交換ができています。また、年に1度、家族アンケートを実施し、意見を共有して運営に反映しています。得られた意見は申し送りノートで職員間の共有としています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	どんな小さな意見でも、心おきなく話せる職員会議を月に一回行っている。また、個人的に話しを聞く機会も設けている。	毎月1回、全体会議があり、社長も含めて職員全員が参加し意見交換しています。管理者と職員の個別面談も随時実施しています。また、行事を交替で担当したり、備品管理やお便りづくり、会議録作成など、職員が役割を分担して運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は職員の能力に応じ給与や賞与に反映させている。また、向上心を持って働ける様職員各自に役割をあたえている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、ホーム内の研修やトレーニング等で、職員全員が皆同じ事が出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	石狩市で行われる同業者との勉強会や交流会に参加し、他の施設の方の意見等を参考にサービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受容と傾聴を常に心がけ「自然と笑顔になる暮らし」作りを行い、不安軽減に努めております。言葉で上手く伝えられない方もいらっしゃいますので、行動や態度からも不安要素を探し、安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様が困っている事や不安な事等聞き、ホームの介護をどのように行っていくか説明し、理解して頂く事で関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族様のニーズを聞き取り、(表情や態度からも感じ取り)優先順位を見極め、支援に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員一人一人が「共生、共存」に努めております。利用者様と一緒に過ごす時間を大切にし、本人が出来る事はして頂く様にしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と相談しながら、より良い方向に支援できる様、共に支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様、ご家族様からの情報をもとに、出来る範囲支援しております。	友人や知人、元のサークル仲間などが来訪する利用者もおり、電話の取次ぎなども行っています。馴染みの理美容室や昔から利用していたスーパーに一緒に行くこともあります。家族と共に自宅に一時帰宅したり外食に出かける利用者も多くいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しんでレクリエーションを行なえる様、スタッフが間に入り環境作りを実施しております。笑顔が多い生活を支援出来る様努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	運営推進会議や夏祭り・クリスマスパーティーなど行事の時にご連絡し、参加して頂いております。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様に今までの暮らしや思いを聞き、一人一人の生活習慣を大切にしながら、今までの暮らしと変わらぬ生活が出来る様努めている。把握に困難な場合は様子を見ながらご家族様・スタッフと検討していく。	言葉で思いや意向を表現するのが難しい方も、表情や仕草や家族からの情報をもとに把握しています。過去の生活背景を作成したり、センター方式のアセスメントシートを定期的に見直して情報を共有しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様とお話しをし、生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境・今までの経過等を記録し全職員が把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の日々の過ごし方を記録する。また申し送りやカンファレンス等で、各自の心身の状態や有する力を職員が把握する様努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行ない、ご本人様、ご家族様の意向をお聞きし、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	介護計画は3ヵ月で見直し作成しています。モニタリングをもとに職員が全員参加するカンファレンスで意見を出し合い、次の計画に反映しています。介護計画の目標項目に沿って日々の記録を記載するようにはしていますが、十分ではありません。	介護計画の目標項目に沿って日々の支援内容が記録できるよう、様式の見直しや記載方法のルールづくり、職員の意識づけなどの取り組みを期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝の申し送りで、気が付いた事は報告し、毎日の入居者様の様子、変化時は必ず記録し職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しに取り組んでいる。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様、職員と相談しながら、柔軟な姿勢な支援で、その都度対応できる様取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方に来て頂き、お話しを聞いて頂いたり、演奏やゲームをし楽しんで頂いています。近隣のスーパーや地域の行事に参加しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホーの主治医により、各協力機関を確保している。ご本人、ご家族様の希望により受診したい医療機関があれば、紹介状をでし受診できるよう支援している。	協力医療機関による月2回の往診があります。かかりつけ医を受診する場合で家族の対応が難しい場合はホームで通院を支援しています。受診内容を利用者毎に「受診記録」に記載し、必要に応じて家族に報告しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週2回来て、一人一人のバイタルチェックを行い、スタッフも気がついた事や相談をしている。必要な時はドクターに連絡をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は必ず情報交換を行い、ご家族様や医療機関との相談をいつでも受け入れる体制をとっている。早期に退院できる様、ご家族様、医療機関とも細かく連絡をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状と変化と共に早い段階からご家族様、主治医と話し合い、ホームで出来る事をご家族様にお伝えしています。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」に沿ってホームの方針を本人、家族に説明し、同意書を取り交わしています。実際に重度化した場合は入院するケースが多く、過去に看取りは経験していません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の避難訓練に応急手当や初期対応を含め、定期的に訓練を行い、職員の実施力を身に付けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回避難訓練を全職員で行い、色々なシミュレーションで実施している。地域やご家族様にも協力して頂いている。	避難訓練を毎月昼夜両方を想定して実施しています。訓練には消防署や町内会の協力も得ており、訓練の流れや記録も整備しています。避難訓練の際に職員の救急救命訓練も実施され、水や食料等の備蓄品の準備も行っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊厳し、プライバシーに配慮し介助にあたっている。どんな時も必ず声掛けをし、了解を頂いている。	利用者の呼びかけは「さん」づけとし、対応で気になる点があれば管理者がその都度注意したり、カンファレンスで取り上げています。内部研修で接遇やプライバシー保護も学んでいます。記録類は事務所で安全に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の行動や言葉の中で、本人の思いや希望を見極め、やりたいことや出来る事を活かした働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の一日の生活リズムをなるべく乱さない様に、トイレやお茶、お昼寝などその人に合ったペースで一日を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日清潔な下着や衣類を身に付けて頂いている。同じ服にならない様、職員も一緒に選ばせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各利用者様の体調や好みを考え食事のメニューを職員で相談しながら作成しています。又、刻み食でも、見た目を楽しめる食事を意識して提供しています。準備も利用者様に合わせて、一緒に行っています。	栄養士が作った献立を参考に、利用者の希望を探り入れながらホームで献立を作成し、食材の買い物に利用者も一緒に出掛けています。個々の能力に応じて、調理や盛り付け、後片付けなどを手伝っています。畑で採れた野菜も取り入れ、職員も一緒に同じ食事をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表や水分摂取表を作成し、職員全員が把握できるようにしている。又、水分摂取量が少ない利用者様には、ご家族に確認し、ポカリスエットや、麦茶など好みに合わせて摂取して頂くよう工夫しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床・毎食後・就寝前は必ず口腔ケアを行い、利用者様のADLに合わせて、介助させて頂いている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成して、排泄のパターンを把握するように努めています。各利用者様に合わせて、時間をみて、定期的に声掛けをし、トイレに誘導しています。	利用者全員の排泄チェック表を作り、パターンを把握して誘導しています。誘導の際は羞恥心に配慮し、小声でさりげなく声掛けています。日中は利用者全員がトイレで排泄できており、オムツをなるべく使わないようにしています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつ等にヨーグルトを取り入れたり、毎朝牛乳を飲んで頂いています。また利用者様によっては、食物繊維パウダーを食事などにとりいれ摂取して頂いています。また毎朝ラジオ体操したりし体を動かすようにしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しく入浴ができるように、できるだけ本人の希望にそえるように支援しています。	毎日、午後の時間帯で入浴していますが、希望があれば夜間も対応しています。利用者は週2～3回の入浴をしています。入浴時に職員とゆっくり話をしたり、リハビリ体操をして楽しんでおり、同性介助も行っています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様一人一人の生活習慣や睡眠のパターンを観察し把握している。その日の体調や様子に応じて、声掛けをし休んで頂いている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者様のファイルには最新の薬剤情報を貼り付けて、職員に周知しています。また処方が変わった際には、必ず連絡しています。カンファレンス等でも症状の変化等を検討して、受診の際に先生に報告相談しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のライフヒストリーを把握し、趣味や好みを把握し、談話やレクリエーションを行い、気分転換を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者さまの希望により体調・天候を考慮しながら、職員が同行したりご家族と外出などしている。	日常的に散歩や買い物に出かけたり、ホームの畑で作業をしています。年間行事では花見やピクニック、花火大会、紅葉狩り、食事会などに出かけており、交代で利用者全員が出かけられるようにしています。冬でも買い物に同行したり、雪まつりや菊まつりの見学に出かけています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は、主に職員が行っているが、希望があった場合や、必要性がある場合は、ご家族と相談し了解を得たうえで買い物等をしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望する場合はご家族様などに電話をかけたり、電話の取次ぎはその都度しています。毎年、年賀状を書いて頂き出している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には行事で撮った写真などを飾り楽しい雰囲気になるようにし、トイレも三か所あり、混乱のないようにしている。リビングや居間には、温度湿度計を設置し、管理している。また加湿器も、設置し乾燥のないように対応している。また季節により、ハロウィンやクリスマスの飾りつけ等を行って季節感をだしている。	玄関や廊下、食堂などの共用空間は全体的に広く、台所から食堂、居間、サンルーム全体を見渡すことができます。居間には活動意欲を高める遊び道具や書籍などが豊富に揃っています。壁にはカレンダーや利用者の書道の作品、行事の写真などが飾られ、家庭的な雰囲気づくっています。温度や湿度も調整され、快適に過ごすことができます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様がリビングでの居場所を持ち、廊下や窓際に椅子を置いたりして、思い思いに過ごして頂ける様工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いすで自走しやすいように、廊下を広く作っている。居室ドアには利用者様の写真等を付けて、自分の部屋を認識できるように工夫している。	居室の入口に利用者の写真を飾っています。居室内には使い慣れたタンスや仏壇、テレビなどを自由に持ち込んでおり、居心地良く過ごすことができます。壁にもカレンダーや写真、賞状、花などを自由に飾ることができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面所・トイレは、車椅子対応になっており廊下に手すりをつけ歩行や移動ができやすいように、物を置かないように安全面にも配慮している。			